

聖霊降臨後第4主日特禱（特定7）

すべてのよい賜物を造り、これを与えて下さる力ある神よ、み名を愛する愛をわたしたちの心に植え、まことの信仰を増し加え、すべての善をもって養い、み恵みのうちにこれを保たせて下さい。主イエス・キリストによってお願いいたします。 **アーメン**

旧約聖書 エレミヤ書 20章7－13節

20:7 主よ、あなたが惑わしたので私は惑わされました。あなたは私より強く私にまさりました。私は一日中笑い物となり皆が私を嘲ります。8 私は語るごとに叫び「暴虐だ、破壊だ」と声を上げなければなりません。主の言葉が私にとって、一日中そしりと嘲りとなるからです。9 私が、「もう主を思い起こさないその名によって語らない」と思っても主の言葉は私の心の中骨の中に閉じ込められて燃える火のようになります。押さえつけるのに私は疲れ果てました。私は耐えられません。10 私は多くの人の中傷を聞きました。「周りから恐怖が迫る。告発せよ、我々は彼を告発しよう」と。私の親しい者も皆私がつまずくのを待ち構えています。「彼は惑わされるだろう。そうすれば、我々は彼に勝って、復讐できる」と。11 しかし主は、恐るべき勇士のように私と共におられます。それゆえ、私を迫害する者はつまずき私にまさることができません。彼らは悟りを得ないので、大いに恥をかきそれは忘れられることのないとしへの恥辱となるでしょう。12 正しき人を試み思いと心を見られる万軍の主よ。私に見せてくださいあなたが彼らに復讐されるのを。私はあなたに向かって私の訴えを打ち明けたのですから。13 主に向かって歌い、主を賛美せよ。主は貧しい人の魂を、悪をなす者の手から救われた。

詩 編 第69編7－10、15－17節

- 7 万軍の主なる神よ、あなたを待ち望む者が、わたしのために恥を受けることがないように // イスラエルの神よ、あなたを求める者が、わたしのために辱められることがないように
- 8 わたしはあなたのために恥を忍び // 恥ずかしさのあまり顔を覆う
- 9 兄弟からのけ者にされ // 家族のものから邪魔者と見なされた
- 10 あなたの家を思う熱心が、わたしを食い尽くし // あなたへのそしりがわたしの身に降りかかった
- 15 泥沼に沈まぬようにわたしを助け // わたしを敵の手から助け、水の深みから救い出してください
- 16 大水がわたしをのみ込み // 深い淵、水の底にわたしを閉じ込めないよ
- 17 主よ、慈しみ深くわたしにこたえ // 憐れみ深く顧みてください

使徒書 ローマの信徒への手紙 5章15b-19節

5:15 一人の過ちによって多くの人が死ぬことになったとすれば、なおさら、神の恵みと一人の人イエス・キリストの恵みによる賜物とは、多くの人に満ち溢れたのです。16 この賜物は、一人の犯した罪の結果とは異なります。裁きの場合は、一つの過ちであっても、罪に定められますが、恵みの場合は、多くの過ちがあっても、義と認められるからです。17 一人の過ちによって、その一人を通して死が支配するようになったとすれば、なおさら、恵みと義の賜物とを豊かに受けている人たちは、一人の人イエス・キリストを通して、命にあって支配するでしょう。18 そこで、一人の過ちによってすべての人が罪に定められたように、一人の正しい行為によって、すべての人が義とされて命を得ることになったのです。19 一人の人の不従順によって多くの人が罪人とされたように、一人の従順によって多くの人が正しい者とされるのです。

福音書 マタイによる福音書 10章《16-23》24-33節

9:35 イエスは町や村を残らず回ってそこで、弟子たちに言われた。「収穫は多いが、働き手が少ない。38 だから、収穫のために働き手を送ってくださるように、収穫の主に願いなさい。」10:1 イエスは十二人の弟子を呼び寄せ、汚れた霊に対する権能をお授けになった。汚れた霊を追い出し、あらゆる病気や患いを癒やすためであった。2 十二使徒の名は次のとおりである。まずペトロと呼ばれるシモンとその兄弟アンデレ、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネ、3 フィリポとバルトロマイ、トマスと徴税人のマタイ、アルファイの子ヤコブとタダイ、4 熱心党のシモン、それにイエスを裏切ったイスカリオテのユダである。

5 イエスはこの十二人を派遣するにあたり、次のように命じられた。「異邦人の道に行ってはならない。また、サマリア人の町に入ってはならない。6 イスラエルの家の失われた羊のところへ行きなさい。7 行って、『天の国は近づいた』と宣べ伝えなさい。8 病人を癒やし、死者を生き返らせ、規定の病を患っている人を清め、悪霊を追い出しなさい。ただで受けたのだから、ただで与えなさい。9 帯の中に金貨も銀貨も銅貨も入れてはならない。10 旅には袋も二枚の下着も、履物も杖も持って行ってはならない。働く者が食べ物を受けするのは当然である。11 町や村に入ったら、そこで誰がふさわしい人かを調べて、旅立つときまで、その人のもとにとどまりなさい。12 その家に入ったら、『平和があるように』と挨拶しなさい。13 その家がふさわしければ、あなたがたの願う平和がそこを訪れるようにしなさい。ふさわしくなければ、その平和があなたがたに返って来るようにしなさい。14 あなたがたを受け入れず、あなたがたの言葉に耳を傾けようもしない者がいれば、その家や町を出て行くとき、足の埃を払い落とすなさい。15 よく言うておく。裁きの日には、こ

の町よりもソドムとゴモラの地のほうが軽い罰で済む。」